

大東・東大阪に巨大データセンター計画

— 地域への影響を考える住民学習会

大阪府の大東市と東大阪市にまたがる三洋電機跡地に、大規模なデータセンターの建設計画が持ち上がっています。計画地の周辺には病院や学校があり、多くの住民が暮らしています。しかし、計画の詳しい内容や地域への影響について十分な情報が伝えられていないことから、不安が広がっています。

こうしたなか、地域住民が「三洋電機跡地のデータセンターと地域環境を考える会」を立ち上げ、まず知ることから始めようと、歌川学氏を招き学習会を開催しました。7月10日当日は、会場いっぱいの約210人が参加。データセンターは大量の電力を消費し、排熱や冷却のための水確保、非常用発電設備による大気汚染や騒音など、地域に多くの悪影響を生じる可能性があることを学びました。

ただ現在の制度では、データセンター設置に特化した規制がなく、「事務所」「倉庫」「電気通信施設」



などの申請で自由に建設が可能です。住民からは、事業者からの環境対策を含めた情報公開や自治体のチェック、最終的には住民合意が必要ではないかとの意見が出されました。

このように多くのデータセンターが身近な地域につくられようとしている中、地域の環境や住民の暮らしを守るためにどうするかが問われています。

長尾ゆり（大阪から公害をなくす会・CASA理事）

Contents

特集 データセンターの地域への影響 2

大東・東大阪に巨大データセンター計画 — 地域への影響を考える住民学習会	1
「今後の原子力政策の方向性と行動指針」の改正への 意見の提出	6
「農林漁業の健全な発展と調和のとれた再生可能エネルギー 電気の発電の促進による農山漁村の活性化に関する 基本的な方針を改正する件の案」に関する意見の提出	8
世界を襲った猛暑・熱波・山火事について	10

世界と日本の再エネの導入状況	12
我が家の脱炭素 ⑧	14
SDGsサークル「POST」とボードゲーム	16
CASAのこの間の取り組み／インターン生の紹介	18
自然エネルギー市民の会 活動報告	20
10年ぶりに「地球温暖化資料集」を作成中(2)	23
CASAからのお知らせ	24